

船舶事故調査報告書

平成23年9月1日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委 員 横 山 鐵 男（部会長）
 委 員 山 本 哲 也
 委 員 石 川 敏 行

事故種類	衝突（棧橋）
発生日時	平成23年2月25日（金） 16時40分ごろ
発生場所	広島県江田島市小用港西沖 ^{こよう} 棧橋 小用港西沖防波堤灯台から真方位139° 90m付近 (概位 北緯34° 17.1′ 東経132° 28.5′)
事故調査の経過	平成23年4月18日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	旅客フェリー 第八きりくし、375トン 136194、 ^{かみむら} 上村汽船株式会社 48.91m×10.50m×3.85m、鋼 ディーゼル機関、1,324kW、平成15年10月
乗組員等に関する情報	船長 男性 28歳 五級海技士（航海） 免許年月日 平成21年4月2日 免状交付年月日 平成21年4月2日 免状有効期間満了日 平成26年4月1日
死傷者等	なし
損傷	本船 右舷船首角の衝突予防保護ゴム及び同ゴム取付部損傷 棧橋 なし
事故の経過	本船は、両頭型の旅客フェリーであり、船長ほか2人が乗り組み、乗客20人及び車両2台を載せ、小用港西沖棧橋において船首を棧橋に着棧する際、突風を受けて船尾が西方に圧流されたので船首側及び船尾側の舵とスクリューを使用して態勢を直そうとしたが、平成23年2月25日16時40分ごろ、右舷船首外板角部が棧橋に衝突した。 船長は、着棧後、負傷者や損傷した車両がないことを確認して乗客を下船させたのち、衝突箇所及び航行に支障がないことを確認して運航を続けた。
気象・海象	気象：天気 薄曇り、風向 北北西、風力 3、視界 良好 海象：潮汐 下げ潮の中央期、波高 約1.5m
その他の事項	本船は、舵とスクリューを船首側と船尾側の両方に備えており、使用する側を選択することにより、その反対方向へ前進することが可能であり、状況に応じて全てを同時に使用することも可能であった。 本船の衝突予防保護ゴムは、船首と船尾の中央及び両舷角に各1か所の計6か所に取り付けられていた。 船長は、入社3年目であった。

分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり なし あり 本船は、小用港西沖棧橋に船首を着けようとした際、風で船尾が圧流されたことから、右舷船首部が棧橋に衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、小用港西沖棧橋に船首を着けようとした際、風で船尾が圧流されたため、右舷船首部が棧橋に衝突したことにより発生したものと考えられる。	
参考	本事故後、船舶所有者は、平成23年10月に、本船の衝突予防保護ゴムを大きく丈夫なものに新替えることとした。	